

市長挨拶

「自然とみどりの中で絆^{きずな}を育み、“新しい暮らし文化”を創造・発信するまち」を芦屋の将来像に掲げてスタートした第4次芦屋市総合計画が10年の計画期間の中間点を迎えました。

前期の主な取組としては、芦屋川の特別景観地区の指定や景観行政団体への移行など、良好な住環境の保全・育成を内外に発信するとともに、子育て支援では、待機児童の解消に向け、認定こども園等の誘致など、良質な教育・保育の提供に努めてまいりました。また、財政健全化におきましては市債残高が500億円を切り、目標どおりピーク時の半分以下の水準にまで減少させることができました。

後期の計画期間では、人口減少が全国的な課題となっており、国、地方がその対策に取り組み始めています。本市の人口は当面は微増が続くと見込んでおりますが、将来的に減少することには変わりなく、様々な対策を講じる必要があります。そこで「芦屋市創生総合戦略」を策定し、総合計画と一体的に取り組むこととしています。

私は日頃から、「教育と安全がしっかりしているまちに衰退はない」と確信しています。環境、景観を大切にしてきたことも、安全につながるという側面を持っていると考え取り組んでまいりました。

この度策定した「後期基本計画」は、総合計画の基本構想のもと、従来の基本計画を見直し、これからの5年間で重点的に取り組む施策を示しています。将来の芦屋市が「住み続けたいまち・住んでみたいまち芦屋」として多くの方に憧れと夢を持って選ばれる、世界でも特別なまちであり続けるための創造的なまちづくりに挑戦してまいります。

この計画の策定に際しましては、様々な機会を通じ市民、学識経験者の皆さまなど、多くの方にご協力いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

平成28年（2016年）3月

芦屋市長

山中 健

